

平成24年12月18日

秩父市議会議長 小 櫃 市 郎 様

文教福祉委員長 笠 原 宏 平

文 教 福 祉 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

- 1 期 日 平成24年10月10日(水)～12日(金)
- 2 視察先 奈良県奈良市、徳島県美馬市、香川県坂出市
- 3 参加者 委員長 笠原 宏平 副委員長 小池 治
委員 木村 隆彦 委員 高野 宏
委員 山中 進 委員 大久保 進

4 視察目的

奈良県奈良市 「小中一貫教育について」

○ 市の概要

奈良県の北に位置する奈良市横田町は、約37万人の市民で面積は276.84 km²の自治体である。県庁所在地でもある当市は、世界遺産「古都奈良の文化財」として、8つの資産（東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡）で構成され、これら全体で物語っている奈良の歴史や文化の特質が評価されています。また 奈良時代に平城京が置かれた古都であり、シルクロードの終着点として天平文化が開いた地として知られています。

○ 事業の概要

平成17年4月から奈良市立田原小学校・中学校において、9年間の連続性を重視した教育課程を編成し、魅力ある授業づくり、魅力ある学校づくりをすすめていて、昨年4月から本格実施している小中一貫教育の成果等を発表しました。奈良市は、平成16年3月24日に「世界遺産に学び、ともに歩むまちーなら」小中一貫教育特区として、構造改革特別区域計画の認定を受けています。



徳島県美馬市 「ICT を利活用した健康管理支援と高齢者の安全確保について」 「うだつの町並みについて」

○ 市の概要

美馬市は、2005（平成 17）年 3 月 1 日に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた、豊かな自然と数多くの文化財が残る歴史情緒あふれるまちです。徳島県の西部（県都徳島市から約 40km）に位置し、西側が三好市、美馬郡つるぎ町と、北側が阿讃山脈の山頂で香川県と、東側が阿波市、吉野川市、名西郡神山町と、南側が那賀郡那賀町と接しています。

市のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れ、穴吹川など幾多の川が吉野川に流れ込み、その沿岸の平野部が主な可住地となっています。北側の阿讃山脈、南側の剣山をはじめ、ほとんどが山地で、総面積の約 8 割が森林となっており、清らかな水と豊かな緑に囲まれた自然の美しい地域です。人口は約 3.4 万人、総面積は、367.38km² で、これは徳島県全体（4,145.69km²）の約 8.9%にあたります。このうち可住地が 76.22km² で、総面積の約 20.7%を占めています。

○ 事業の概要

総務省地域情報通信技術利活用交付金を活用した、美馬市「健康・安全・安心」支援事業の事業報告をまとめました。この事業は美馬市全域に展開した光ファイバー網と音声告知放送システムによる情報通信ネットワーク施設の有効活用を目的としたもので、平成 22 年 7 月から 9 月の 3 ヶ月間、一人暮らし高齢者の見守り強化と壮年期の特定保健指導対象者の健康管理支援を実施しました。

脇町の「うだつの町並み」は、「重要伝統的建造物群保存地区」1988（昭和 63）年 12 月 16 日に全国で 28 ヶ所目の選定された日本の道百選に選ばれました。特徴として[1]東西に通じるメインの道路の長さは約 430m、指定地区の面積は 5.3ha、伝統的建造物は 88 棟、環境物件（石垣や井戸等）65 件、修景物件（母屋、塀等）94 件です。[2]通りに面した母屋のうち、



伝統的な町屋は 50 戸あり、そのうち 22 戸が間口四間半（9m）以上の規模となっています。敷地の奥行きは間口に比べて深く、80m 以上のところもあります。[3]建物の特徴は、屋根は本かわらぶきであり、2階の窓は防火に重点をおいた「虫籠窓」となっています。2階の屋根の両端にしっくい塗りの「うだつ」があります。[4]建物で最古のものは、1707（宝永 4）年の棟札は確認されています。保存計画では、昭和のものまで含めて母屋の 7 割となっています。

地元では全戸が参加して、保存会を結成。一致団結して、町並み保存と修復に努めています。また、住民有志は、ボランティア活動として、町並み見学者の案内にあたり、隠れた協力者となっています。

香川県坂出市 「小学校の統廃合について」

○ 市の概要

市の中心部は海岸沿いに平坦に開け、綾川を中心に豊かな田園地帯が広がっています。海に出れば瀬戸大橋沿いに島々が連なり、瀬戸内海国立公園の美しい景観を見せます。

郊外には、快適なドライブが楽しめる五色台スカイラインや、崇徳上皇ゆかりの白峯寺を有する五色台、約 500 本の桜が咲き乱れ、県下でも有数の桜の名所として有名な聖通寺山公園、山城の歴史が残る城山、讃岐富士と称される飯野山などがあり、海に山に自然豊かな土地柄です。平成 4 年には四国横断自動車道が瀬戸大橋が連結し、坂出は本州と四国を結ぶ高速道路網の四国側の玄関となる重要な拠点となりました。米子・高知間の南北地域連携軸のちょうど真ん中に位置する地理的特性を十分に活かし、坂出市は「瀬戸内の交流拠点 活力とふれあいの坂出」を目指したまちづくりを進めています。

○ 事業の概要

全国的な傾向と同様に、坂出市においても少子化に伴い児童生徒数が減少し続けており、子どもたちの学習や学校運営等に支障が生じ始めたことから教育委員会としては、まず、市立幼稚園の再編に取り組み、平成 17 年度から旧市内の 5 幼稚園を統合し、新たに坂出中央幼稚園をスタートさせました。一方、公立小中学校の再編整備については、これまでの児童生徒数の推移や学校施設の老朽化・耐震化の対応などについて調査研究を進めてきました。教育委員会としては、次代を担う子どもたちの教育効果を第一に考えて最適規模の学習集団を編制し、学校が学校として教育環境を作り出すため、いかに学校の再編整備を進めていくかを最重要課題として捉えています。そこで、平成 19 年 7 月 27 日に委員 25 名で構成する「坂出市学校再編整備検討委員会」を設置し、本市の望ましい教育環境の将来像について議論を重ねました。そして、平成 20 年 2 月にパブリックコメント（市民からの意見公募）を実施したうえで、平成 20 年 4 月 22 日開催の第 9 回検討委員会において答申内容が決定され、同年 4 月 30 日に同検討委員会から答申書の提出を受けました。教育委員会は、答申で示された小中学校の適正規模、適正配置の基本的な考え方ならびに再編整備（統廃合）の具体的方策を尊重しながら、再編整備実施計画を策定しました。答申における学校再編整備の進め方は、前期（概ね 5 年以内）、後期（概ね 10 年以内）、将来構想の 3 段階の構成となっており、さらに、都市計画線引き廃止後の本市の将来人口予測における変動要素があることや年少人口の推移を見極める必要から、「将来構想で掲げた統合計画は、7 年程度の後において、児童生徒数の動向や地域の状況をもとに改めて具体的再編計画の検討を行うこととする」とされています。



【少子化と高齢者・健康管理に取り組んだ街を視察して 笠原 宏平】

文教福祉委員会の1つ目の視察は、奈良市にある田原小中学校。名前の通り小学校と中学校の一貫教育の学校で、現在1年生から9年生で生徒数64名でした。1年生から英会話を学びALT（外国人講師）を導入。3年生からは情報科を加えパソコンやインターネット。5年生からは、郷土「なら」科を加え、奈良の伝統文化や世界遺産・伝統工芸と授業内容も魅力あるものでした。また、前期を1年生から4年生、中期を5年生から7年生、後期を8・9年生と3ブロックに分け、遠足や球技大会等も積極的に活動しているようでした。

2つ目は、徳島県美馬市で健康管理支援システムについて、2009年から始めた光ファイバー網を利用して独居高齢者の安否確認サービス「見守りシステム」を行って来た経験を基礎に、今度は市民の健康管理を支援するもので、特定保健指導が必要な人に体重計（体脂肪率も測れる）・血圧計・尿糖値計の3機種を貸出し、測定したデータを光ファイバーで送信し、多機能テレビ電話に返信されたグラフを見ながら保健師にアドバイスをもらうものでした。

3つ目の視察は香川県坂出市の坂出小学校を視察しました。22年4月より3つの小学校が統合して出来た学校で、平成19年7月に坂出市学校再編整備検討委員会を立ち上げて、少子化に伴う児童生徒数の減少と学校施設の老朽化・耐震化にかかる諸問題の解決を図るべく、小中学校の適正規模・配置により出来た学校でした。

秩父市も、このような問題を抱えており、1日も早く行政と一緒に、当市に合った方法で、問題解決をしていかなければならないと思った次第です。

【少子化に伴う計画的学校運営 小池 治】

全国的な人口減少、特に少子化は、学校教育の大きな課題となっている。今回の視察は、そういった意味から貴重な情報収集の機会であると捉え、質問も事前に用意し、現地へ向いました。対象ケースとしては、小中一貫教育の実践例、このケースとしては、奈良市を視察できることになりました。もう1つは学校再編（統廃合を含む）のケースで、こちらは香川県坂出市で受け入れていただけることになりました。いずれも、大変貴重な体験談を得ることができ、質疑応答も正直（本音）なところを聞かせていただけまして、実りのあるものでした。資料も、詳細なレベルのものが入手できておりますので、関係者に配布し、有効利用を考えたい。いずれにしろ、700文字という制限の中で語り尽くせるものではないので、概要を述べております。今後参考資料をもとに、秩父市における計画とつき合わせ、より合理的であり、児童はもちろん保護者も納得していただける計画が提案できるよう努力したい。

<奈良市小中一貫教育>

教育基本法改正を受け、平成16年3月24日に小中一貫教育特区として認定された。平成17年度より、田原小中学校において小中一貫教育を開始した。

小学6年生にとったアンケートに、「中学進学に向けて心配や不安に思っている人は」という問いに86%の人が「ある」と答えており、内容は、「学習の進め方や定期テスト」を挙げている生徒が70%を越えている。これは一例にすぎないが、生徒の不安を取り除くことは、学習効果を高めるためにも絶対といえ、大きな効果が得られたと確信している。

【小中一貫校奈良県「田原小中学校」を視察して 木村 隆彦】

田原小中学校は、平成16年3月に「世界遺産に学ぶまち一なら」として小中一貫教育特区に認定され、パイロット校として小中一貫教育を開始しました。現在の児童生徒数は男子34人女子30人の64人で、1学年から9学年で構成されています。9学年を3分割され1年から4年生までを前期、5年から7年生までを中期、8・9年生を後期とブロック化されています。部活動、児童会は5年生より参加します。入学式は1年生で、卒業式は9年生となります。教師においても、1年入学時より卒業までの9年間を携わることにより、児童生徒の成長が見られます。また新設3教科として、英会話科、郷土「なら」科、情報科の教科があり、小学校1年生より英会話の授業があります。18年、19年の実績として英検準2級に9名(64%)3級(100%)が合格しています。情報科においてはパソコンを使った授業を行い、8年生ではホームページ作成まで行われています。郷土「なら」科では、世界遺産や地域遺産、伝統文化、自然産業の見学調査を行い郷土に対する理解を深めています。休み時間の子供たちを見ていると、高学年の生徒と低学年の児童が高学年の教室で絵を描いていました。グラウンドでは、学年を超えてチームを作りサッカーを楽しんでいました。まさに、地域の子供たちが地域の子供を育てているようで非常に素晴らしいと感じました。質疑の時間に「卒業した子供は田原地区に戻ってきますか」という質問には、地域としてやはり厳しいようでありました。秩父地域においても秩父で大切に育てた子供たちが地元で活躍できるような地域にすることは、今後の課題だと感じました。

【小学校の統廃合について 高野 宏】

今回文教福祉委員の一員として、奈良市「小中一貫教育について」、徳島県美馬市「ICTを活用した健康管理支援と高齢者の安全確保について」、香川県坂出市「小学校の統廃合について」等の行政視察を行いました。今回特に坂出市の小学校の統廃合についての行政の取り組みは、担当した前課長からの詳しい説明もいただき大変有意義な視察研修となりました。坂出市と旧秩父市の概況は似ており、海に面し離島はありますが中央の市街地と周りの山間部とで構成されています。人口は昭和35年6万2千人が平成23年は5万5千人で児童数は8千人が2千5百人に減少しており、高齢化率も30パーセント弱で少子高齢化が進んでおり、中央市街地の空洞化も秩父市と同等と思われます。このような状況の中で坂出市教育委員会では、児童生徒数の推移や学校施設老朽化・耐震化の調査研究を進め、子供たちの教育効果を第一に考えて最適規模の学習集団の編成、学校としての最大限の機能を発揮できる教育環境を作り出すための学校の再編を最重要課題として「坂出市学校再編整備検討委員会」を設置し多くの市民の意見を取り入れ、平成22年度より地域に見合った学校の統廃合再編に着手し、今年4月に完成した坂出小学校の新校舎を今回見学させて頂きました。



統合して新校舎になった坂出小学校

【「幼・小中一貫教育」ほか 山中 進】

奈良市の小中一貫教育は保護者、教師、地域住民で考えを出し合い教育委員会をまじえ、それぞれの事情で、それぞれの地域にあった方法を考え平成17年から実施されている。

秩父市でも山間地を抱え近い将来小学校・中学校の統合が行われるであろうと考えると、教育委員会、行政主導ではなく保護者の皆さん、地域や現場教師とも連携し一番良い方法を模索し、教育を秩父らしい個性のある地域にあった方法が必要ではないかと確認できた。

〈うだつ(卯建)のあがる町美馬町〉

うだつとは、二階の引き面から突き出した漆喰い塗りの袖壁で「火よけかべ」とも呼ばれ防火の役目をしていました。

秩父市でも、秩父神社近くのふるさと情報館にしかりありません。養蚕や林業が盛んだった時代には幾軒もあったと聞いている。残っているこのうだつはぜひ残さねばと思うところである。



【小中一貫教育を視察 大久保 進】

奈良市では「世界遺産に学び、ともに歩むまち一なら」をテーマに、小中一貫教育特区のパイロット校である田原小中学校で実施してきた。「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」を学校教育目標とする奈良市立田原小中学校を視察させていただきました。この学校は義務教育の9年間で前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)という3ブロックに分けて、ブロック最高学年のリーダーシップを育てます。また新設教科として情報科・郷土「なら」科・英会話科を設けて、情報科では前期の後半からパソコンを使い始めて、後期では実際にポスター・チラシなどを作成して学校行事などの案内をしています。郷土「なら」科では中期から始めて、奈良の歴史や文化、産業を学習し、奈良にある素晴らしい文化財や伝統などに対する誇り、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みに対する誇りなどを学び、学習を深めることを通して、地域や奈良に対する誇りを育てています。この秩父でも、同じように、伝統文化を大切に作る心が必要に思います。また地域も一体となって、田原小中学校のサポート活動をしています。当市でもこの取り組みが生かせればと思います。



昼休みに楽しそうに談笑している
1年生と9年生